

百歳体操の様子



吉 水

12月1日現在 <前月比>
 65歳以上男 1,539人<-1>
 65歳以上女 1,787人<+4>
 高齢化率 19.45%<-0.05>

発行 吉身学区社会福祉協議会

シリーズ自治会自慢

下之郷自治会



下之郷は弥生時代の国史跡を有し、「じいちゃんズ」が20年余り吉身小学校の赤米学習田活動をサポートするなど、何かと豊かな土地柄です。今日では市街地と田園地帯の間（はざま）となり住宅開発も著しく転入者の多い地域となりました。町民の集い・夏祭りでは、組長・評議員・各種団体等100人以上の住民が力を合わせ行います。参加者も多く(本年約1500人：下之郷遺跡会館調べ)、転入者にも参加しやすい行事となり、住民相互のコミュニケーションのよき場となっています。9月の長寿を祝う会では、一部のアトラクションを新規転入者のギター演奏を中心に皆で協力して盛り上げました。



【夏祭りの様子】

今年度はカフェ型サロンや百歳体操を始め、高齢者の健康と居場所づくりなど福祉活動も充実してまいりました。介護ゼロをめざし、年を重ねても地域の中で楽しく生涯現役で過ごせる一助となればと願っています。

また、消防設備の総点検、特に30か所以上ある自治会全域の消火用ホース格納箱の点検・修理を行い、新しい住宅地には新設をするなどして安心のまちづくりに努めてまいりました。自主防災・交通安全・福祉・ゴミ美化問題・広報の五つの委員会が組織的に動き、問題があるとその都度、迅速で適切な対応をこころがけています。

【総合事業第2層協議体を発足】

総合事業とは、平成27年に施行された新しいサービスです。この事業の趣旨として厚生労働省は「市町村が中心となって地域の実情に応じて、支え合う体制づくりを推進し要支援者に対する効果的かつ効率的な支援を目指す」としています。

第2層協議体とは、学区単位の総合事業の協議の場です。吉身学区では地域の皆さんが「住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために」昨年12月に協議体を発足しました。まずは、現状を把握するために一人暮らし高齢者の皆さんに総合事業のアンケート調査をお願いしてご協力頂きました。

さらに、活動の名称を「第2層協議体」から「**助け愛よしみ**」に変更して進めていく予定です。地域の皆さんの絶大なるご協力が必要です。

生活支援コーディネーター 馬場 春造

伝えて行きたい日本の伝統あそびと文化

12月22日(金)子ども達に日本の伝統的なあそびを体験してもらおうと、今年も「伝えて行きたい日本の伝統あそびと文化」を開催しました。吉身小学校と立入が丘小学校の児童が参加し、たこ、万華鏡、コマ回し、めんこ、百人一首などであそびました。



【防災ひとくちメモ】 声をかけることも応急処置のひとつ！

応急処置というと医療知識がないとダメと思いませんか？医師による処置が最適ですが、「大丈夫」と手を握ってあげることも命を救う助けとなります。

